



小郡市立小郡中学校

令和6年12月5日

小郡中学校だより

第225号

校長 船津 聡 哉



学校教育目標 ～夢と志をもって主体的に学び、心豊かにたくましく生きる生徒の育成～

読書を楽しみましょう！…先生方による読み聞かせはいかがでしたか

本校は毎年、読書月間を設定しています。本年度の読書月間は11月25日～12月6日で、11月28日の朝の読書の時間には、図書委員が選んだ絵本を先生方が読み聞かせをしました。



「読み聞かせ」の様子

生徒のみなさん、先生による読み聞かせはいかがでしたか。

日本の国民的行事として定着した『読書週間』は、終戦まもない1947年(昭和22)年、まだ戦火の傷痕が至るところに残っているなかで「読書の力によって、平和な文化国家をつくろう」という趣旨のもとに開催され、大きな反響を呼び、翌年から文化の日を挟んだ二週間で『読書週間』に決めました。この『読書週間』が全国に広まり現在に至っています。しかし、近年、「読書離れ」という言葉がささやかれるようになりました。社会全体の本離れが進んでいるようです。確かに電車のなかで以前は、文庫本などを読む人を見かけましたが、最近ではほとんどの人がスマートフォンを手に使っている光景が日常的になりました。スマートフォンを使って読書をしている人もいますが、読書をしている人が少なくなっているように思えます。

今、電子メディアの発達によって、世界の情報伝達の流れは変容し続けています。しかし、知識だけでなく、自分の考えや人間性を育て、かたちづくるのに本が重要な役割を果たすことは変わりありません。読書週間(月間)が終わっても読書を楽しんでほしいと思っています。また毎年、読書週間標語が選ばれています。今年(2024年)は「この一行に逢いにきた」という標語でした。この標語をつくった方は、「本の中にグッとくる一行があって、何度も何度も目でなぞり、ついには暗記してしまう。作者はこの一行のためにこの本を書いていて、読者はこの一行に出逢うため読んでいるのだと思うとき、幸福になる自分がいます。」と述べていました。暮らしのスタイルや人生設計のなかに、「本のつきあい方」をとり入れていきませんかと伝えてくれているようですね。



人権週間〈12/4～12/10〉です 自分の生活を見つめ直す機会に



世界の国々で数多くの人びとに知られている世界人権宣言は、1948年12月10日に第3回国際連合総会の場で採択されました。その後、1950年第5回国連総会で毎年12月10日を「人権デー」と定め、人権思想の普及・啓発のための行事などを実施するよう呼びかけています。日本もこれを受け、毎年12月4日～10日を「人権週間」として、全国的に人権意識の高揚を図るための啓発活動が展開されています。小郡市でも毎年、人権週間記念講演会が開催されています。〈今年は、12月8日(日)に小郡市文化会館で木村草太さんが「差別されない権利」と題して、お話をされます。ぜひ、参加してみてください。〉

世界人権宣言は第二次世界大戦がもたらした悲劇、苦悩、破壊への深い反省の中から生みだ

されたもので、『二度と戦争を起こしてはいけない』差別を撤廃し、人権を確立することが恒久平和に通じる』という誓いが込められています。また、人類史上初めて全世界すべての人々の人権を守ることを公的に明らかにしたものです。宣言文は前文および三十条から構成されています。前文では「すべての人民とすべての国とが達成すべき共通の基準」として宣言されており、第一条で、『すべての人間は、生れながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である』と謳われています。

『人権』とは、簡単に言えば「誰もが生まれながらにもつ、人間らしく、幸せに生きる権利」のことで、学校・家庭・地域などでお互いに『人権』を尊重し合うことができているのかをこの機会に見つめ直したいものです。そして、みんなが大切にされ、幸せに生きることが出来る世の中にするために、自分は何をすればよいのかを考え行動していきたいものです。

赤ちゃんふれあい体験学習を行いました〈3年生〉

小郡中学校が「赤ちゃんふれあい体験学習」にとりくみ始め、今年で24年になります。

今年も助産師さんやこども家庭支援職員(保健師)の方々に学校へ来ていただき、10月21日(月)と10月29日(火)に事前学習にとりくみました。事前学習では、妊娠週数別に変わっていく母子の様子や母子を支える仕組み等のお話、赤ちゃん人形や妊婦ジャケットを用いて「赤ちゃんの抱き方」や「妊婦体験学習」を行いました。

そして、11月12日(火)～20日(水)には各学級ごとに乳幼児健診会場のあすてらすにて赤ちゃんふれあい体験学習を行いました。期待や不安がありながら参加したようですが、時間とともに3年生のみなさんの緊張した表情が笑顔に変わっていく様子を見ることができました。この赤ちゃんふれあい体験学習で、たくさんのお話を学んだことでしょう。その学んだことは、3年生のみなさんの生きる力になっているはずです。学んだことや感じたことをこれからの生活や将来の自分に生かしてほしいと思っています。



10.21事前学習の様子



10.29事前学習の様子



赤ちゃんふれあい体験
〈あすてらすにて〉

花いっぱい運動〈花苗を植えていただきました〉

小郡校区協働のまちづくり協議会の青少年育成部会のとりくみとして毎年花苗植会が実施されています。今年も11月25日(月)に生徒会環境委員と校区青少年育成部会員のみなさんで花苗を植えていただきました。花苗を植えて育てることによって、快適な生活空間がつかれ、生徒のみなさんの気持ちも豊かになることでしょう。ありがとうございました。



花苗植会の様子

本校生徒の活躍の紹介〈福岡アンサンブルコンテストで金賞を受賞〉

12月1日(日)に柳川市民文化会館で福岡アンサンブルコンテストが開催されました。本校からは、クラリネット三重奏(さん、さん、さん)が出演し、心のこもった演奏をしてくださいました。その結果、見事金賞を受賞、12月21日(土)に開催される県大会に出場します。県大会もがんばってください。応援しています。



小郡市立小郡中学校 令和6年12月24日

小郡中学校だより 第226号

校長 船津聡哉



学校教育目標 ～夢と志をもって主体的に学び、心豊かにたくましく生きる生徒の育成～

2学期が終わります …「自問自答」を日々、繰り返しましょう

【2学期の終業式で、次のようなお話をしました】

いよいよ2学期も今日で終わります。同時に2024年(令和6年)という1年ももうすぐ終わろうとしています。みなさんひとりひとりの2学期の、そして今年1年の評価はいかがでしたか？ぜひ、時間をとって自分自身を評価してもらいたいと思っています。



2学期は文化発表会がありました。文化発表会では各学級いろいろな課題を克服しながら、自分たちの合唱を創りあげることができ、聴く人に感動を与えました。学級の団結の高まりを感じることができたのではないのでしょうか。

2年生は修学旅行もあり、振り返れば、これらのたくさん行事を通して、あるいは日々の学校生活のひとつひとつの地道な取組によって、人間的にも着実に成長してくれていると感じています。ただ、このようなみなさんのがんばり、団結力が発揮された一方で、課題もはっきり見えてきたのではないのでしょうか。自分の課題、集団としての課題を明確にし、その課題解決のために行動してもらいたいと思っています。

今日はみなさんに成長し続けるための秘訣を伝えたいと思います。

私たちはいろいろな場面で、自分の行動を他の人から評価をされるとき、そこには様々な感情が起きます。褒められれば、うれしくなって心おどるような気持ちになり、さらにモチベーションが高まるかもしれません。逆に、課題を指摘され努力・奮起を促されれば、何となく気持ちが落ち込むかもしれません。しかし、一番大事なことは、他人の評価もさることながら、まずは自分で自分を正しく評価するという事ではないでしょうか。

人間というのは、自分のことは自分が一番よく分かっているからいいんです。ですが、そこがとっても難しい…。ついつい言い訳もしたくなる、人のせいにしたくなる…。決意したことが実行できたかどうか、自分を見失うことなく精一杯の努力を続けることができたかどうか、うまくいかなかったことを人のせいに逃げていなかったかどうか、そのことで人を傷つけていなかったかどうか…などなど、易きに流されてしまう自分をぜひ見つめ直す必要があるのです。

世界的によく知られている物理学者、アインシュタインは知識や学識だけでなく、内面の洞察を磨くことが重要だと言っています。また、『大切なのは、自問自答し続けることである』という言葉も残しています。

「自問自答」…素直な心で自らに問いつつ、自ら答えることですが、単なる問いかけや答えの探求ではなく、日々の自己対話を通じて自己を深く理解すること、これが成長し続けることにつながるということです。

ぜひ、「自問自答」を日々、繰り返しながら生活していきたいものです。



〈裏面に続く〉

2024年度の生徒会拡大執行部のみなさんは、今日で退任し、新生徒会拡大執行部のみなさんにバトンを渡すこととなります。本年度の生徒会拡大執行部のみなさんはもちろん、3年生のみなさんはいろいろな場面でリーダーシップを発揮してくれました。3年生のみなさんには、本当に感謝しています。3年生は勝負の冬休みですから、自分の進路実現のために最後の一踏ん張りをしてください。充実した冬休みに、そして、来年が小郡中生徒のみなさんにとってすばらしい年になることを祈ります。

2年生修学旅行 たくさんのことを学びました

修学旅行スローガン

SAIKOU

～ 最高・最考・最幸 ～

2年生は、12月10日(火)～12月12日(木)の日程で修学旅行に行き、広島・京都・奈良で平和や日本の歴史・文化を学んできました。自分のことや仲間のことを見つめるよいきっかけとなる修学旅行でした。

1日目は、本校体育館で出発式を行い、新鳥栖駅から新幹線で広島へ。広島の天候は晴れ。到着後、「広島お好み駅前広場」でお好み焼きを堪能し、貸切バスで平和記念公園に行きました。佐々木禎子さんをはじめ、原爆で亡くなった多くの子どもたちの霊を慰め、世界に平和を呼びかけるという目的で建立された「原爆の子の像」の前での平和集会。「誓いの言葉」を読み上げ、千羽鶴を捧げて全員で黙祷…本当の平和のとびらを開くために、自分に何ができるのかを考えた瞬間でした。次に、原爆で亡くなった多くの人々への鎮魂と平和を守っていく決意を込めて「ふるさと」を合唱しました。子どもたちの歌声は平和記念公園に響き渡り、すばらしい合唱となりました。その後、平和ガイドさんからの説明を受けながらの碑めぐり。平和な現代に生きる私たちにとって信じがたいような原爆投下の様子を語る平和ガイドさんの話に子どもたちも聞き入っていました。平和記念資料館の見学も行い、改めて平和であることの尊さや当たり前を過ごしている日常の大切さを実感することができた1日となりました。



平和記念公園にて

2日目は、京都市内班別1日研修を行いました。京都の天候は晴れ。事前に班ごとに決めていたコースに別れて、京都の歴史や文化について学習しました。人類の歴史を引き継いだ世界遺産や美しく伝統的な町並みの散策、夜は「舞の鑑賞」もあり、子どもたちにとって楽しい貴重な体験となりました。



京都班別研修 清水寺にて

3日目は、お世話になった旅館の方々に見送られ、奈良に向かって出発しました。長年の風雪に耐え、静かな威厳を漂わせる東大寺南大門、そして世界最大級の木造建築の大仏殿を見学しました。二度の焼失に遭いながらも再建を果たした大仏殿…そこに込められた人々の思いに触れることができました。



東大寺大仏殿にて

2年生は、この修学旅行でたくさんのことを学んだことでしょう。広島では戦争の悲惨さと平和のありがたさを実感し、日本の平和、世界の平和に寄与できる人になるための第一歩になったのではないのでしょうか。京都や奈良では多くの文化財の見学や観光を通して、歴史や文化の素晴らしさもたっぷりと堪能することができたことでしょう。また、拡大実行委員会を中心に生徒ひとりひとりが修学旅行の全体、自分の役割をよく把握し、自分は何をしなければいけないかを考えて行動することや協力することの大切さも学んだことと思います。4月からは最上級生です。自覚と責任をもった行動に大いに期待しています。